

## 自然生に寄せて

私が少年期に育った所は江州の山村ですが。年をとってきたせいか、無性に昔の事が懐かしく想い起こさせられることがあります。自然生掘りもその一つです。山深く入って、芋の在りかを探しあて専用の道具（先の尖った鉄の棒）を使って、根気強く、芋を傷つけずに掘り起こし、大きさ、長さ（折らずに掘り出すのは至難の技）を友人と競いあい自慢しあったものです。自然生は木の根を巻き、石を抱きこみ、横に斜めにと周りの条件によって、複雑に変形しグロテスクな姿をしています。一つとして同形のものはありません。

自然生の名の由来はさだかではありませんが自然をシゼンと読まざず『ジネン』と訓みかえ、諸としないで『生』を当てている事に、深い意味がありそうで、仏教の教えの香りを感じさせられます。

山芋の根は地中深く垂直に伸進するのが本性でしょうから、すんなりした形が自然な姿かもしれませんが現実の形は異様な複雑な個性的な形をしています。石があったら石を避け、根に障ったらそれを巻き込み、しかし本来持っている真下に伸進する本性は忘れないで育った姿、それが本当の自然な姿なので、それをジネンというのかもしれないかもしれません。私達は障害に遭うと避けっぱなしで自分の進む道を見失いがちですし外観でのみ、物を見てしまう事が多いことです。

御開山は自然法爾章の中で『ジネントハ、オノズカラ、シカラシムルノ意ナリ』とお示し下さっています。その深い意味あいを味わいさせていただきたい事です。